

# ぐびろが丘



編集長 本田 徳鷹 (医学部メディア部)

編集部 長崎大学医学部ぐびろが丘編集部  
長崎医学同窓会  
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号  
☎095-848-5484  
E-mail: ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp

印刷 日本紙工印刷株式会社

## 海外リサーチ

### ベラルーシ

4年 田中 萌

うれしかった。それに、ベラルーシは食べ物がないでもおいしい！ポルシチに黒パンに肉料理、ウオッカ、赤ワイン・・・。

何度思い返しても楽しく、貴重な体験となった。ベラルーシに行くきっかけをくださった先生方に本当に感謝しています。

締め切りギリギリで飛び込んだ、海外リサーチ。私が先生に「行きたいです！」と申し出たのは、面接当日の朝だった。私はリサーチでどの教室を選ぼうか、何にも考えていなかった。「原研・熱研における国際保健活動の紹介」という医ゼミを選択していた私は、面接前に先生から「誰か海外リサーチに行かないか？」というメールをいただき、「どこか遠い国に行ってみたいな」と思っていたのでベラルーシというところを、ベラルーシという国を知っていますか？ベラルーシ共和国は、ロシアとウクライナに隣接し、1991年に旧ソ連から独立した新しい国。言語はベラルーシ語とロシア語だが、ほとんどの人がロシア語を話す。国内に日本人は20名ほどしかいない。1986年4月26日、ウクライナの国境近くにあるチェルノブイリにおいて人類史上最悪ともいわれる原子力発電所事故が起き、ベラルーシは多大な被害を受けた。原爆の被害を受け

た長崎にいる私にとって、近くて遠い国だ。ベラルーシに到着して、見たことないほどたくさん雪、体験したことのない寒さにとってもワクワクした。私が滞在したとき、もともと寒いベラルーシでもとくに寒い年で、マイナス20℃が続いた。外にいると、髪の毛が凍りしり地面もツルツル滑るし周りの人々は毛皮に身を包んでいる。この寒さだから、ウオッカで体を暖めることがとても大切なのだ。

ベラルーシでは、首都ミンスクにあるベラルーシ国立医科大学の寮に滞在した。私のリサーチの研究テーマは、原研・放射線疫学分野が行っている食物中の放射線量の測定の一部として、これまで測定した食物以外の放射線量を測定するということがあった。測定する試料を手に入れるために、ベラルーシでもとくに事故の被害を受けたゴメリに夜行列車で6時間かけて行った。とてもどかどかでカラフルな町。しかし、ゴメリ州の病院や診療所の方に話を聞くと、事故当時は食品の放射線汚染がとくに問題で、食べる前にゆでては放射線量の測定を繰り返して、精神的にとっても辛かったと言っていた。今も病院に

は放射線量を測定する機械があり、診療所には食品汚染に対する注意書きが掲示されている。汚染が警告されていた食品はどれもベラルーシ人にとって欠かせない食材ばかり。また、事故後、甲状腺癌の増加も認められ、人々は放射線の見えない恐怖に脅かされる日々を過ごした。私が持ち帰った果実の測定結果としては高い放射線は検出されなかったが（キノコでは検出されている）長崎で原爆の話を知っているベラルーシ共和国が受けた原子力発電所事故による被害の話は原子力の恐怖を知る体験となったし、原子力発電は資源のない日本にとって重要であることを理解し、うまく付き合っていくことが重要だと感じた。

また、ベラルーシは日本より医療水準が下だが新しい技術を取り入れて医療の向上を目指す医師や同じような志をもっている医学生と触れ合うことができ、海外に行く魅力を感じた。言語大学にも日本語専攻の学生がいて、授業に参加したりパーティーをしたり・・・日本人がほとんどいない国で、日本について勉強している学生がいることは本当に



## 海外リサーチ

### 昨冬のドイツ、ヴュルツブルグの1年

4年 難波 夏実

2009年12月、2010年2月までの約2ヶ月間、ドイツのWuerzburg大学でリサーチセミナーの実習をさせていただきました。

医師や5、6年生の実習生も積極的に意見を述べて診療に関与し、実際にふつうに学生がひとり患者の採血や問診、身体所見をとったり検査などを任せられていたのに驚きを覚えました。ドイツの医学生はカリキュラム的に低学年のうちから(3年時から病棟実習、その前にも休暇中には看護実習など)病院実習を多く経験する分、若いうちから臆せず積極的に診療行為を行って力を培っているという考えを持っていました。

ドイツの医学生は4回の国家試験を乗り越えてようやく医師免許を手に入れることができるといいます。この研究室でも医学生が何人も研究に携わっていました。この研究室で、授業の一環で研究しているという人とは別に博士号を取得するために授業がない時間に通っているという学生もいました。ドイツでは学生の間でも研究室に通い、研究した内容の論文を書いて博士号を取得することが可能で時間はかかるけれど大学院に行かなくても済むのでそうする人も少なからずいるとのことでした。

ドイツの医学生は4回の国家試験を乗り越えてようやく医師免許を手に入れることができるといいます。この研究室でも医学生が何人も研究に携わっていました。この研究室で、授業の一環で研究しているという人とは別に博士号を取得するために授業がない時間に通っているという学生もいました。ドイツでは学生の間でも研究室に通い、研究した内容の論文を書いて博士号を取得することが可能で時間はかかるけれど大学院に行かなくても済むのでそうする人も少なからずいるとのことでした。

まず、Wuerzburgに着いて早々に驚いたのはその冬の寒さと人々の温かさとの差。気温は寒い時マイナス15℃近くにも下がり、最初のうちはその寒さに慣れるのに必死でした。まだ慣れなくて戸惑うことも多かった私たちに研究室・病院の担当の先生方やドイツの医学生との交流は皆とても親切に接してくださり、何かと手助けをしてくださったおかげで本当に2ヶ月間大きな不自由もなく楽しく過ごすことができました。週末には少し遠く

ブルグなどの町にドイツの医学生と一緒に出かけたりご飯を食べに連れて行ってもらうたりと本当に良い思い出ばかりを作ることができました。ドイツ人は街中のお店の人が普通英語を話すことができ、困っている時も英語で尋ねると快く教えてくれる人が多く感動する場面も多かったです。Wuerzburgの町は中心部から大病院のあるほうに向かって小高い丘があるため、坂のある町で、すこし長崎を彷彿とさせる部分も見受けられました。大病院はとて大きく、長崎大学との決定的な違いはひとつの建物にすべての科が入っているのではなく、大きな建物がいくつも分かれて建っており、中には精神科などひとつの科でひとつの病院のようになっているものもありました。リサーチについてですが、精神科で2週間ほど実習させていただいたあと残りの期間は主にInstitut für Hygiene und Mikrobiologieという研究所で髄膜炎菌の研究グループに入れていただき、髄膜炎菌のタイプング研究を行いました。精神科の実習では、長大にはない小児精神科を見せたいとお願いすることができ、ADHDや摂食障害などの子供たちと実際に触れ合ったり犬や馬と触れ合うdog/horse therapyや手を動かして何かを作ったり他の子と触れ合うhandcraft & play therapyなどユニークな診療スタイルを体験することができました。病棟では若い

も実際にskills labでの基礎臨床技術の実習(4年後期の診断学実習のようなもの)でドイツの医学生はチューターから気管挿管や採血、外科的縫合の仕方を教えてもらうことができ、ありがとうございました。

ドイツの医学生は4回の国家試験を乗り越えてようやく医師免許を手に入れることができるといいます。この研究室でも医学生が何人も研究に携わっていました。この研究室で、授業の一環で研究しているという人とは別に博士号を取得するために授業がない時間に通っているという学生もいました。ドイツでは学生の間でも研究室に通い、研究した内容の論文を書いて博士号を取得することが可能で時間はかかるけれど大学院に行かなくても済むのでそうする人も少なからずいるとのことでした。



▲Skills lab での上級生チューターに指導してもらっている実習風景



▶ドイツの国民的行事カーニバルでの学生partyにて



海外リサーチ

初海外でオランダへ 4年平 光寿

2009年12月10日午後9時、成田空港国際線ターミナル。島出身の田舎ものがこんな処へ来るなんて…。一念発起したリサーチセミナーでのオランダ留学。僕の心の中にはある決意がありました。

先に書いたように五島市富江町で生まれ育った僕は、医学部を志した中三の春から専ら「離島医療」について学び、ひたすらその知識を蓄積してきました。大学入学後も僻地医療に関わるワークショップに参加したり、地域の医療従事者の方とお話させていただく中で、「将来は地域の最前線で働く医者になる。いやこれだけ学んできたんだから、なれるはずだ！」などと勝手に考えていました。しかし、ふと思ったのです。例え離島医療に関することであっても、1つのテーマにこだわって続けることが、本当に未来の患者さんのためになるだろうか？フットワークの軽い学生のうちだけにやっておいたほうがいいのではないだろうか？この思いを胸に、地域医療とはある種、真逆とも言える海外留学に乗り出しました。

オランダで過ごす2月～2月のリサーチ期間。これは紛れもなく素晴らしい2ヶ月間でした。僕が入らせていただいたのは Leiden University Medical Center (UUMC) の Vascular Surgery 門。動脈硬化の分子メカニズムについて研究に参加させていただきました。リサーチ内容に関する詳しい話はここでは割愛させていただきます。病院の様子を少し紹介したいと思います。UUMC はライデン中央駅からも眺めることができます。市内でも有数の大きさを誇るその建物は、オランダらしいオレンジと、白と青を基調としたシンプルな作り。病棟&外来棟、研究棟、講義棟などいくつかの建物からなっています。Vascular Surgery の研究室はメインの外来棟にあつたのですが、一番驚いたのは地下に学生が運営する食堂（営業時間12時～17時）があつたことでした。長崎大学でいうと、臨大の下で平日から学生が飲めるような感じでしょうか。日本との文化というか生活の違いに衝撃を受けました。その他にも週に何回も各科の勉強会に参加したり、昼休みには海外の大学の有名教授の特別講義があつたり、遊びにしても勉強にしても学生にとっては素晴らしい環境にあると感じました。

パリのシャンゼリゼ通りで過ごすクリスマス、福岡に行く感覚で、ベルギーで頂く高級チョコプレートやおよそ800種類のビール、会場一体となつて応援するサッカー。このような楽しい欧米の生活に慣れて、また純粋に自分のスキルアップのために、将来的に海外留学をしたい人も多いのではないのでしょうか。しかし僕自身としては、僕のように海外留学なんて一度も考えたことのないような人にこそ、このリサーチセミナーの海外留学制度を活用してほしいと思います。いつ行けるかも分からない海外の有名大学で、奨学金の支援もいただきながら研究をさせてもらえるのです。日本では会えない人々と、普段使わない言語で会話をし、様々な考え方に触れ、想像以上に自分自

◀オランダならではの水路のある風景



▲ラボの方々と送別会

身の幅を広げることができました。これから留学する皆さんも、自分の世界が広がる良い体験が出来ることを祈っております。僕自身も常識に囚われず、いろいろな活動を広げていきたいと思います。

最後に今回の留学に関してご尽力いただいた、小路教授、留学生センターの赤司さん、ライデン大学の皆様、そして留学期間中支えていただいた友人のみんなに感謝の意を表し、僕の体験記を締めくくらせていただきます。本当に貴重な体験をありがとうございました。

サークル紹介

園芸部 ぐびろ

有り様。

そこで、医学部150周年を記念して、グビロが丘再生プロジェクトが立ち上がりました。

「もう一度、虞美人草が咲き乱れる丘にしよう」との呼びかけに沢山の人が協力してくれて、今では立派な花壇が作られています。

▼園芸部 ぐびろ

さて、園芸部に興味を持ってもらえましたでしょうか？  
あと、園芸部の特徴といえば部員の9割は兼部！ということになります。

活動自体が2週間に1回程度なので無理なく続けられ、忙しい時は月に1回程度、種まきや草むしりなどのイベントに参加しても大丈夫です。

また部員同士とても仲が良いので、様々な部活の先輩後輩と仲良くなることができます！

左の写真は一昨年の夏に行った霧の滝です。滝で泳いで、バーベキューして、花火して、近くの温泉に入ってきましたね！

絶対また行きたいですね！

ることができました。グビロでは誰でも温かく私達を受け入れてくれて、何事もなく楽しく過ごすことができました。

増幅、サザンプロットイングを行いました。数10個の検体を与えられ、すべてAEまたはCEで、半々程にランダムに混ぜられて、この過程によりポジティブであればAE、ネガティブならばCEと判断します。DNA抽出は簡単で上手くいったと考えられますが、DNA増幅に使う溶液を調整するのが細かい作業で難しく、失敗も多々ありました。ポジティブサンプルが出たサンプルについては、AEであり結果は正解といえましたが、ネガティブサンプルが見えなかったものや、ポジティブコントロールにおいてシグナルが見られなかったものもあり、私が行ったPCRの信頼性は低い結果となりました。

入部希望の方は左記のアドレスまでメール下さい！みなさんの入部お待ちしております。

海外リサーチ 平成21年度 海外リサーチセミナー

4年 溝口 麻衣

私がリサーチで行ったのはドイツのヴュルツブルグ大学でした。12月半ばにフランクフルト空港に着くと、外の気温はマイナス15℃、雪が真っ白に街を覆い尽くして、私が今までに体験したことのない寒さでした。

大学では私は精神科病棟と、微生物学教室で研究生として勉強させていただきました。精神科では、日本にはない小児精神科という15歳までの子供たちの診療をする科を見学しました。ADHDと診断された子供たちが多く、病棟のすぐ近くの学校に通いながら病院で体管理を行い、horse therapy & music therapy など、患者本人の心を開くようにと働きかける。

とを心がけた治療が主に行われていました。セラピーを行いながら子供たちとも英語でコミュニケーションが取り、学校についてや病院についてなど話をきくことができました。

微生物学教室では、エキノコックスという寄生虫について寄生方法や場所、病態、診断について学びました。DNAの抽出など初めての作業もありましたが、ここでも技術者の方やドクターが丁寧に説明してくださったので、一人でも作業ができるまでになりました。

ここでの研究内容は、Echinococcus には Alveolar Echinococcus (AE) と Cystic Echinococcus (CE) があり、症状や予後、治療法が大きく異なるため、段階的に組織学的診断、血清学的診断、遺伝子学的診断を行い、診断方法を理解し実際に自分で手順を追って行うことでした。

これらの特徴を踏まえて検体を観察します。次に血清学として、AEに特有の血清中Em18を検出する実験を行いました。これはAE、CEともに寄生虫細胞から放出されるものですが、CEでは寄生虫の殻を破って血清中に高濃度に現れることはないため、検出されればAEであると見えます。抗Em18抗体を使うキットを使用し、ほぼ正確にAEとCEを区別することはできましたが、このキットでは詳しい数値が得られるわけではなく、+か-かというだけで、治療後の経過をたどるに当たっては信頼性は低いという結論に至りました。しかし、簡便で早いという利点と陽性の信頼度から、初診には使いやすいといえます。

最後に遺伝子学的診断で確定するため、DNAの抽出、AE特異DNAをターゲットにしたDNA増幅、サザンプロットイングを行いました。数10個の検体を与えられ、すべてAEまたはCEで、半々程にランダムに混ぜられて、この過程によりポジティブであればAE、ネガティブならばCEと判断します。DNA抽出は簡単で上手くいったと考えられますが、DNA増幅に使う溶液を調整するのが細かい作業で難しく、失敗も多々ありました。ポジティブサンプルが出たサンプルについては、AEであり結果は正解といえましたが、ネガティブサンプルが見えなかったものや、ポジティブコントロールにおいてシグナルが見られなかったものもあり、私が行ったPCRの信頼性は低い結果となりました。

入部希望の方は左記のアドレスまでメール下さい！みなさんの入部お待ちしております。



▼グビロが丘とは？  
医学部の構内にある丘。ボンベ会館の横から上れます。  
昔、丘に虞美人草（ひなげし、ポピー）の花が咲き誇っていたのを精神科の石田昇教授が見て名付けたそうです。

虞美人草が咲く路の丘  
その後、原爆が落とされたときに医学部敷地内で亡くなった人の遺骨を生き残った方々が拾い集めて丘に埋葬し慰霊碑を建てたそうです。

このように歴史ある場所なのですが、3年前までは手入れが全く行き届いていませんでした。ひなげしが咲くどころか雑草だらけの

<部長>  
医学部医学科4年 竹下隼人  
hayato\_t\_6@hotmail.co.jp

詳しくはHPを Check!



# サークル紹介



「のんびりと落ち着いている様子・気分」

「上品で明るく華やかな様子」

## 茶道部

【挨拶・茶道によせて】  
 こんにちは、長崎大学医学部茶道部（裏千家）です。皆さんは「茶道」というとどんなイメージを思い浮かべますか？作法がややこしいとか堅苦しい、なんだか古めかしい、なんてイメージを持っている方が多いのではないでしょうか？  
 確かに表面的に見るとそう見えないこともありません。しかし、茶道をやりはじめてみると、だんだんとそうではないことがはつきりと見えてきます。最初は堅苦しそうに見えるお点前の作法も、習っていくうちに、それがお茶を点て、お客をもてなすために最も合理的かつ美しいものであること、そして、そこには茶道を歩んできた先人たちの知恵がこもっていることがわ

かってきます。  
 このお点前も、日々時代に合わせて新しいものが作られています。今では、結構メジャーになりましたが、立礼（椅子やテーブルを用いる点前）などもその一つです。正座ではなく、胡座で行う点前なんてのもあるんです。東京のほうで学生が考案した棚が正式にお点前として組み込まれたという話もありました。  
 変化はお点前に関してだけではありません。明治以降、茶道が女学校等の修身に取り入れられたために女性も茶道を習うようになったというのも出てきました。こうしたことから、茶道は決して古いだけのものではなく、現在も進化し続ける和の文化の一部であるといえます。  
 なんだか小難しいことを長々と書いてしまいましたが、茶道には様々な魅力が沢山あります。このように語っている私にもまだまだよく分からないことが多く、茶道というのは本当に奥の深い世界であることを日々実感しています。このような茶道の世界を大学時代に少しでも覗いてみてはいかがでしょうか？  
 上に「まろ茶」は「なんなり」と書いてあったと思います。この言葉のように、私たち茶道部はいつも「まろ茶」として時に「なんなり」と日々

の活動にいそしんでいます。そのような私たち茶道部の魅力と、その活動の一風景を次にご紹介いたします。  
 【お稽古の風景】  
 これらが少し昔の部活の風景です。今は活動場所が移動しましたので、少し背景が変わりますが、大まかな活動には変化はありません。相変わらず「まろ茶」活動しています。  
 ▲濃茶点前の一風景  
 右が先生、左が今年5年生の小武先輩です。



このように、お点前の作法を一つずつ丁寧に先生が教えてくださいます。時には、味わい深いお話も。日本の文化についての知識も深まります。日頃何気なく接してきたものにも意外な意味があることを知ることが出来る目から鱗です。

▲濃茶点前の一風景  
お茶をいただいたところ。

▲お稽古の時、お客に入ってお茶をいただく際には、薄茶、濃茶を問わず、必ずお菓子が付いてきます。大抵は近くの和菓子屋、寿福の季節感豊かな菓子を用品ですが、時々お土産として様々な地域のお菓子がでてきて、一層彩りを加えます（花梨糖とか柚子の砂糖漬け、もみじまんじゅう、かすまき、各種干支菓子に二人静、一六タルトなど。今度村雨かな...♪）  
 ちなみに十月くらいには柿羊羹も出ました。  
 ▲これまた濃茶点前の一風景  
 男性部員も女性部員に負けず活発に活動しています。



これはお茶碗が戻ってきて、お湯を注ぎ終わるところかな...？  
来たれ！男性諸君！！（もちろん女性も大歓迎です！）

【そして新入生およびその他の学年の皆様へ】  
上で紹介したようなものほかに、茶道部には魅力的な活動は週二回、火曜日と金曜日、活動場所は生協二階、第一談話室で、時間帯は5:30~7:30が稽古（前後に30~40分程度準備と片づけをはさみます）です。  
そしてまた、初夏と秋季の二回、茶会を行っています。そのほかに和菓子作り体験や、他の団体が主催する茶会など、自由に参加できる様々なイベントもあります。

今回事業、一度気軽に見学にいらしてください（兼部も可能ですので、すでにどこかに所属の方も是非！）、部員一同お待ち申し上げます。  
 ▲秋季茶会の集合写真（ブリックホールにて）

### ◎第62回西日本医科学学生総合体育大会結果

バレーボール	男子 一回戦敗退 女子 二回戦敗退
バスケットボール	男子 一回戦敗退 女子 不参加
卓球	男子個人 シングルス ベスト32 池田 貴裕 女子団体 三位 女子個人 シングルス 優勝 有田 美里 ダブルス 優勝 花牟禮・有田組
バドミントン	男子団体 ベスト8 個人 ベスト8 上野・金本ペア 女子団体 ベスト16 個人 ベスト8 浦壁・神田ペア
剣道	男子団体 準優勝 男子個人 優勝 園田素人 男子新人戦 ベスト8 福本将之 ベスト16 石原寛之 女子団体 決勝トーナメント一回戦敗退（ベスト16）
空手道	不参加
弓道	入賞なし
準硬式野球	二回戦敗退
ラグビー	不参加
サッカー	一回戦敗退
テニス	男子 優勝 女子 二回戦敗退
ソフトテニス	男子 団体戦 優勝 個人戦 四位 脇園・町田組 女子 団体戦 三位 個人戦 ベスト16 深田・住吉組
水泳	男子 入賞なし 女子 総合6位、200mメドレーリレー6位 個人 赤松摩紀（200m自由型6位、400m自由型2位） 塚田幸絵（50m平泳ぎ4位、100m平泳ぎ3位）
ボート	男子一般舵手付きフォア部門 優勝 大学別総合成績 第一位
陸上	男子 トラック部門3位 [110mH]鳥越健太：2位（15'30） [やり投げ]白石斗士雄：6位（48m30） [4x100mR]清水一辻-池田-鳥越：2位（43'35） [4x400mR]鳥越-池田-平-西口：2位（3'25'65） 女子 [400m]樋口真帆：5位（66'56） [やり投げ]中里結花：4位（20m21） [円盤投げ]中里結花：5位（16m04） [4x400mR]形山-中里-種田-樋口：5位（4'41'05）

### 医学展 2010

▲ジャグリング  
「傘回し、中国コマ、ボールクラブでの妙技で楽しませてくれました！」

▲ミス医学部  
渡辺詩織 剣道部所属  
「こんな私が選ばれて恐縮です！近所のおじちゃん、おばちゃんからもミスと呼ばれるようになってなんだか不思議な感じがします（´・ω・´）」

医学展 2010  
日時：11/13(土)・14(日)  
場所：医学部本キャンパス

▲園芸部企画  
「グビロが丘に虞美人草（ひなげし）の種を蒔きました！絵ハガキ楽しみます！」

▲ミスコン応援団  
「ミス候補の手足となり、ときに愉快にときに力強く会場を沸かせてくれました！」

▲茶室 剣道部  
「剣道部のタピオカ、チヂミ、タコスを食べたでしようか。実は剣道部は医学展の4日前にバスケ兼松杯飲み会で居酒屋のトイレを壊してしまい、その方はミスになったんですが、とにかく売り上げは弁償代にと2日間全員が一つとなって頑張り成功することが出来ました。」

▲茶室 硬式テニス部  
「最初は不安ばかりでしたが、1、2年を中心に一体となっていていい思い出を作ることができました。ご来店された方にはお礼申し上げます。」

▲茶室 園芸部  
「免許がとれる！野菜もとれる！」

▲茶室 硬式テニス部  
「最初は不安ばかりでしたが、1、2年を中心に一体となっていていい思い出を作ることができました。ご来店された方にはお礼申し上げます。」

▲茶室 園芸部  
「免許がとれる！野菜もとれる！」

▲茶室 硬式テニス部  
「最初は不安ばかりでしたが、1、2年を中心に一体となっていていい思い出を作ることができました。ご来店された方にはお礼申し上げます。」

▲茶室 園芸部  
「免許がとれる！野菜もとれる！」

▲救急1 救急隊員の方より  
「大変な仕事なので、人間性のあるいい医者になって下さい！！  
本当にそれを願うのみです。」

▲救急2  
「地元の高校生の人たちにも救急活動を体験してもらいました！」

▲四年生企画  
「突然目の前で人が倒れたとき、君ならどうする？ さあ、命を救う手伝いをしよう！」

▲三年生企画  
「小児がんについて医療者としての視点で考える機会を得られ、カズくんドキュメンタリーも感動しました。」

▲茶室 園芸部  
「免許がとれる！野菜もとれる！」

▲茶室 硬式テニス部  
「最初は不安ばかりでしたが、1、2年を中心に一体となっていていい思い出を作ることができました。ご来店された方にはお礼申し上げます。」

▲茶室 園芸部  
「免許がとれる！野菜もとれる！」

▲茶室 硬式テニス部  
「最初は不安ばかりでしたが、1、2年を中心に一体となっていていい思い出を作ることができました。ご来店された方にはお礼申し上げます。」



《学生の声 in 目安箱》

ご好評につき前回に引き続きこのコーナーを掲載！
今回は新入部員参入により少々賑やかになりすぎているようですが…!?

@個室、マッサージチェア、フリードリンクなスペースが欲しい
E：ネカフェかいい！
Y：むしろ仮眠室ほしい
N：じゃあ新しい弓道場を…
Hi：じゃあ24時間開放温水プールを！ほら、リハビリとかできるし。
Ho：おまえそれ言い訳だろ！
E：皆違って皆いいby金子みすず
Ho：じゃあ次の意見いってみようZE！

@駐車場管理委員会って許可証もらう人どうやって決めるのでしょうか。
正直ちょっと納得がいかないのですが…。
Ho：あれってどうやって決まってるんだらうね。
A：この2年間取れてたんすけど、今回急に切られたんすよね(怒) いったいどうなってるんでしょう。
N：それはバカ正直に直線距離書いたAが悪いよ！
Y：そもそも長崎みたいな坂や直線じゃない道が多いところでの判断基準はナンセンスじゃないかな。
E：いやでもあれ嘘書いてる奴もいるよな。
Ho：生きていく上で時には嘘も必要かもしれない。でもそれで悲しむ人もいるんだ！
A：そう！俺はそれが言いたかった！とにかく俺は悲しい！
Hi：まあみんなちょっと落ち着こうか。じゃあ次の話題(判)

@授業評価シートってぶっちゃけどう思いますか？
Hi：申し訳ないけど、なんかあんなので授業評価が決まるのはちょっとね。
考えてみや。あんなの真面目に書いてる人いないし！
Y：真面目に使われてるかどうかは別として有効とは思えないよね
A：そもそも先生が毎回変わってるのに1回で評価する意味がわからん。
Hi：あんなの配られた時点でやる気であんな強制的な質問の答え書かせるぐらいなら自由意見ひとこと書かせるだけの方がましだよ！
N：ちょっとカメラ止めて！
Hi：いや、ごめん俺考える前にクチから出ちゃうから。
ボクハコンナコトスルタメニコノ大学ニキタンジャンナイ！
E：(意味不明なため)よし、じゃあ次いこう。

@部活がきつすぎます。どうにかしてください。
E：どうしろと…。
Y：うちキツくないし。
A：じゃあ黙れ(笑)
Hi：陸トレしてる意味マジわかんないんだけど。
Ho：陸トレして何…？
N：さあ。陸上トレーニングじゃね？
Hi：ボクハコンナコトスルタメニコノ部活ニハイツタンジャンナイ！
A：(意味不明なため)じゃあこのあたりで締めましょう。
全員：お疲れ様でした～。

Hi：僕の部活バテないよね…？(汗)

メディア部ではこのような意見や今回の記事に対する感想を随時受け付けております！たったの一言でもかまいません！
ぜひ体育支援センター前の目安箱に投函、もしくはhryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jpまでメールお願いします！ (文責：江原)

ぐびろが丘 第1回アンケート：テーマ⇒“テキスト”

以下の教科に対し、実際学習に用いたテキスト、資料などに○を付けてください(複数回答可)。
ちなみにここで取り上げている教科は、医と社会などの試験のないものは省いてあります。また、テキストの版は煩雑さを避けるためあえて記入していません。また、通年科目については、前期の所にのみ記載し、後期の部分は省いてあります。一応未履修の教科については解答しないでください。

Table with 4 columns of text listing various subjects and textbooks for a survey. The columns contain lists of subjects like 'Immunology', 'Anatomy', 'Biochemistry', etc., and corresponding textbook titles and authors.

編集後記

紆余曲折を経て、無事2回目の新聞を発行することができました。対談も更にエスカレートし、わずかながら人数も増えていきます。部員、協力者は随時募集しているので、文章書くのに興味がある人は遠慮なくどうぞ。

初めての新聞作成で、あまりお役に立てませんでした。が、とても楽しかったです！とても貴重な体験をさせていただきました。次回からは本格的に参入していきます！と思っております！
新たな企画を入れていくので、お楽しみに☆
4年 平野仁士

初めまして、目安箱発起人です。今回ぐびろという事で、茶道部の記事およびアンケートの作成等を担当させていただきました。今後とも記事や編集等に関わっていくことになりそうですが、少しでも良い記事が書けるよう努めさせていただきますので、あの武骨な目安箱共々どうかよろしくお願いたします。
3年 山本直毅

埋もれていく学生の疑問、本音…誰が拾ってくれるのか？国家試験合格率上昇に向け、学生への束縛は増えていきます。皆さんも声を上げてみてはいかがでしょう。先生方、意外と気にされています。
5年 江原大輔